

# 公益財団法人 日本交通公社 出版物のご案内

当財団では、調査研究の成果を、出版物を通して広く公開しています。各書は次の方法でお求めいただけます。

●当財団ホームページ／賛助会員様は一部を除き会員価格がご利用いただけます。  
<http://www.jtb.or.jp>

●書店／大型書店、政府刊行物サービスセンター・ステーション（官報販売所取扱所）などへ購入いただけます。またはお近くの書店でご注文ください。  
 ●オンライン書店／オンライン書店からは、紙書籍版とともに一部書籍のペーパーバック版（プリントオンデマンド印刷）、電子書籍版も発行しています。

## ■観光地経営の視点と実践（丸善出版）（2013年12月発行）

「観光地経営」について8つの視点と10の実践例を元に、その考え方や展開手法を解説。2015年5月に「観光地の現状と課題を紐解きながら、理論と実践の両面をおさへ、観光地経営の必要性を提示した良書」として、日本観光研究学会第8回「学会賞 観光著作賞（一般）」を受賞。



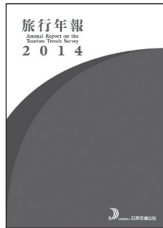
## ■美しい日本 旅の風光（JTBパブリッシング）（2014年5月発行）

調査研究専門機関として50周年を迎えたことを期に、当財団が長年取り組んできた「日本における観光資源の評価に関する研究」の成果を基に監修した写真集。完全英語訳付きで海外の方にも広く日本の観光資源の魅力をお伝えできる。\*オンライン書店にて「電子書籍版」も発行中（電子書籍版は掲載写真の一部を変更あるいは非掲載となっております）。



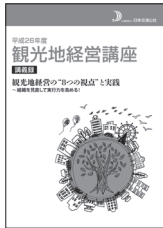
## ■旅行年報2014（2014年10月発行）

日本人の旅行者の意識と行動、訪日外国人の発地調査、都道府県別の政策アンケート調査などの当財団独自調査の分析レポートを中心に、「日本人訪日外国人旅行」「観光産業」「地域」「観光政策」について直近1年の動向・出来事を総覧した一冊。当財団の研究員が分析、執筆編集。当財団ホームページからPDFにて無料公開中。



## ■平成26年度観光地経営講座 講義録 最新刊（2015年3月発行）

\*オンライン書店（amazon.co.jp）三省堂・アマゾンより「ペーパーバック版（プリントオンデマンド印刷）」も発行中。  
 平成26年度の「観光地経営講座」の講義録。「観光地経営の8つの視点と実践」組織を見直して実行力を高める！を主題に、山梨県富士河口湖町、八ヶ岳南麓（山梨県・長野県）で活躍する方々の事例を紹介した一冊。



※担当：公益財団法人日本交通公社 観光研究情報室  
 電話 03・5255・6036 <http://www.jtb.or.jp>

## 次号予告

●次号の特集では、2009年（平成21年）以来6年ぶりに9月の「シルバークロウイク」が出現するタイミングで、改めて国内需要に目を向け、従来からの課題である「需要の平準化」について考えます。インバウンドの推進を含めて、今後、地域側はどのように需要と供給をバランスさせ生産性の向上を図っていくか、といった観点から検討を試みます。

## 当財団からのお知らせ

●「2015年度シンポジウム・セミナー開催予定」  
 当財団主催の今年度シンポジウム・セミナーについてご案内します。

### 第25回 旅行動向シンポジウム

2015年10月23日（金）

会場：大手町サンスカイルーム（東京・大手町 朝日生命大手町ビル内）

本年9月末発行の最新版『旅行年報2015』の内容を中心に、当財団独自調査による日本人の旅行インバウンド、観光政策など、我が国の旅行観光の動向について研究員が概説します。

最新情報詳細については準備ができ次第、当財団ホームページでご案内します。当財団ホームページ URL: <http://www.jtb.or.jp> トップページ

### 「研究員コラムの紹介」（2015年3月～5月）

各研究員が独自の経験と視点を基にして、ホットな雑感を綴ります。当財団ホームページ「研究員コラム」に掲載した3カ月分を、紹介します。

#### 「研究員コラム」で検索できます。

- 242 位置情報データと観光の最新動向 (相澤美穂子)
- 243 観光プランナーに必要な「地域へのまなざし」 (大隅一志)
- 244 事業者、業界、観光客のための観光品質保証制度 (柿島あかね)
- 245 「香港のQuality Tourism Servicesを事例として」 (門脇菜海)
- 246 「慣れない」日本を外国人に楽しんでもらうには (川口明子)
- 247 「スキーと温泉から考える」 (川口明子)
- 248 外国人旅行者のマナーについて (川村竜之介)
- 249 心地よい旅の時間を過してもらうために (菅野正洋)
- 250 オリジナルの経験が地域の魅力に (久保田美穂子)
- 251 朝ドラ効果の持続性 (五木田玲子)
- 252 まちづくりと観光事業の間にある壁 (後藤健太郎)
- 253 歴史ファンが没頭できる観光地づくり (塩谷英生)
- 254 車を降りて、空を飛ばそう (清水雄一)
- 観光地における魅力的な品質と当たり前品質 (外山昌樹)

## 編集後記

◆山歩きする人たちがまだ少ない時、自然との接し方はもちろん、登山者との間にも作法があり、不文律として各人それぞれが守ろうとする意識が働いていたことでしょう。昨今は、高い山の中腹まで道路整備が進むことができるようになってきました。自然環境への配慮やマナーを守ることをしなない人が増え、解決すべき課題が増大してきている現状が特集から分かってきました。

◆人は排泄物やごみを出します。自然界で分解できないものがほとんどです。街なかなら行政が市民の払う税金で処理してくれます。では、山ならどうでしょうか。どうして「入山料」が徴収されようとするのか、どんな背景や仕組み、試行錯誤があるのかを知る機会となりました。サービスを受ける対価として払うのか、国民の自然資源を保全するために払う入山料、入域料あるいは入園料なのか。

◆いったいどのような条件を満たす「解」から選べばいいのでしょうか。その前提として念頭に据えることは、どの「解」が人を育む地球上の自然をより持続可能にするかを軸に考えることかもしれません。

◆当財団専門委員による新連載はいかがでしたでしょうか。次号の「私の研究と観光」と「わたしの1冊」にご期待ください。(片桐)

観光文化編集室メールアドレス：  
[kankouhunka@jtb.or.jp](mailto:kankouhunka@jtb.or.jp)